

兵庫県医師連盟ニュース



発行所 兵庫県医師連盟

〒651-8555 神戸市中央区磯上通6-1-11

Tel 078-265-2328

http://www.hyogo-ishirenmei.jp

編集責任者 八田 昌樹

index

2024 (第32号)

- 医師連盟委員長挨拶
- 兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項
- 自民党との県予算編成に対する要望の回答
- 県民の医療と福祉を考える会
- 釜漈 (かまやち) さとし先生 後援会活動支援のお願い
- 議員対談 衆議院議員 赤羽一嘉氏
- 郡市医師連盟だより (明石市医師連盟)

医師連盟委員長挨拶



兵庫県医師連盟 委員長 八田 昌樹

しました。

日本医師連盟の組織内候補者の選考にあたっての判断基準としては、

- ① 社会保障政策を議論していく上では、社会保障環境をバック

グラウンドにもつ議員の中でトップの票で、また、それだけの票が取れるかが極めて重要であること。

② 医師会、医師連盟の政策や意見を十分に理解し、これを自身の活動に反映いただけること。

③ 医師会活動や医療関係団体の内容を理解して「NOYU」。

④ 地域医療に取り組み、その課題に向き合っていくこと。

⑤ 調整能力も重要であり、議員になった際には政策を確実に実現するため、関係各所に丁寧な説明ができることも重要であることから、幅広い人脈を持っている方等々です。

釜漈氏は、これらの条件を満たし、組織内候補として相応しい方です。

今後について釜漈氏は、「日本の優れた医療や介護の体制を、できるだけ長く続けるために全力で取り組んでいきたい。」と決意を語っておられます。

改善を優先すべき課題としては、

① 4月21日(日)、兵庫県医師会館で開催し、「令和6年度事業計画」「令和6年度予算」「令和6年度会費賦課徴収」の3議案について、原案通り可決されました。

2) 郡市医師連盟における地方自治体首長、選挙区県議会議員、市町議会議員へのロビー活動に対する支援

② 兵庫県議会議員との医療政策に関する意見交換会の開催(医療政策勉強会等の開催)

③ 兵庫県議会主会派に対する医療政策実現化に向けての県予算化要望

④ 兵庫県議会自由民主党保健医療推進議員連盟との連携強化

⑤ 選挙活動の展開

第27回参議院議員選挙における日医連推薦候補者(釜漈敏氏)の選挙支援活動を強力に展開する。

一、政治活動

兵庫県医師連盟定時委員総会議決事項

(1) 4月21日(日)、兵庫県医師会館で開催し、「令和6年度事業計画」「令和6年度予算」「令和6年度会費賦課徴収」の3議案について、原案通り可決されました。

2) 郡市医師連盟における地方自治体首長、選挙区県議会議員、市町議会議員へのロビー活動に対する支援

② 兵庫県議会議員との医療政策に関する意見交換会の開催(医療政策勉強会等の開催)

③ 兵庫県議会主会派に対する医療政策実現化に向けての県予算化要望

④ 兵庫県議会自由民主党保健医療推進議員連盟との連携強化

⑤ 選挙活動の展開

第27回参議院議員選挙における日医連推薦候補者(釜漈敏氏)の選挙支援活動を強力に展開する。

二、広報活動

県民並びに関係団体に対し

1. 診察報酬、介護報酬などは公定価格であり、人手不足が加速する中で、現実の現場の困難を改善できる水準にあるかどうか、制度の持続可能性を担保できる水準にあるかどうか常に検証し、適正に改定すること。

2. 人口の減少は地域差が大きいため、医師をはじめ医療従事者の養成数を適正に調整すること。

また、直近の課題として、必

て、強く医師連盟の理念と医療政策を訴え、理解を得るよう努め、広く県民等を巻き込んだ世論の形成を目指す。

① フォーラム等県民並びに関係団体等参加の集会開催

② 医師連盟ニュースの企画・編集、定期発行並びに関係団体への配布

③ 医師連盟ホームページの紙面の充実

三、対内活動

医師連盟会員への医療政策の啓発とそれを実現させる為の政治活動への参画意識の昂揚を図る。

① 医師連盟若手会員の育成

② 医療政策を政治に反映させる方策の検討

四、各関係団体との連携強化

関係団体との強固な連携のもと、医療施策の実現化の為に政治活動を展開する。

① 日本医師連盟との連携

② 近畿各府県医師連盟(医師政治連盟)との連携

③ 兵庫県歯科医師連盟、兵庫県薬剤師連盟との連携

④ その他の関係団体との連携

(令和6年度会費賦課徴収)

一、会費の賦課額

令和6年度兵庫県医師連盟会費賦課額を次の通り定める。

会費賦課額

A会員(年額) 3,500円
B会員(年額) 1,000円
二、会費の徴収方法
兵庫県医師会会費等徴収規程及び同施行細則に準ずる。

(2) 6月16日(日)に兵庫県医師会館で開催し、令和5年度会務実績の報告、承認を受け、また「令和5年度収支決算」事案について、原案通り可決されました。

**自民党との
県予算編成に
対する要望の回答**

令和5年9月7日に自民党県議団との意見交換を行い、令和6年度県予算編成に対する最重要事項として、「地域包括支援センターのヤングケアラー・若者ケアラー介入促進事業について」実現方を強く要望した事項について、令和6年3月18日(月)午後3時30分から県庁3号館4階の大会議室において、要望事項に対する回答も含めた意見交換が開催された。

自民党県議団からは、伊藤傑(神戸市須磨区)、戸井田祐輔(姫路市)、風早寿郎(宝塚市)、北川泰寿(西宮市)、北浜みどり(神戸市灘区)、山本敏信(高砂市)、奥谷謙一(神戸市北区)、松本裕一(加古川市)、岡つよし(加古郡)の9名、県医師連盟からは、八田昌樹委員長、三浦常任執行委員、杉原常任執行委員、東執行委員、事務局2名が出席した。

(二面について)

(一面より)
開会にあたり伊藤傑自民党県議団健康福祉部会長、八田昌樹兵庫県医師連盟委員長から挨拶を頂き、続いて県医師会からの要望に対する回答、懇談が行われた。

回答

介護に取り組む家族等の不安や悩みに答える相談援助・支援体制の充実を図るため、相談支援の中核的な役割を有する地域包括支援センターの周知やセンター職員を対象とした研修等を引き続き実施するとともに、家族も含めた支援ニーズを把握する地域ケア会議の推進に取り組む。

また、介護支援専門員の研修において、利用者本人のみならず家族の状態も把握し、必要な支援に結びつけていくという家族支援の視点も盛り込んだプログラムを実施する。

引き続き、介護に取り組む家族等の支援に資するため、地域包括支援センターの機能強化及び職員の資質向上を図っていく。

ヤングケアラー支援については、県では「兵庫県ケアラー・ヤングケアラー支援推進方策」を令和4年2月に策定し、専用相談窓口の設置や介護従事者や教育等の関係職員への研修の実施等を令和4年度より開始している。

では、教育や高齢等福祉分野の既存事業や関連施策の活用をベースとしつつ、ヤングケアラーへの支援の視点をとり入れ、必要な支援につなげていく

県民の医療と福祉を考える会

兵庫県医師連盟と兵庫県議会自由民主党兵庫支部連合会による「県民の医療と福祉を考える会」が兵庫県医師連盟18名、兵庫県議会議員19名の出席のもと、令和6年4月11日(木)に兵庫県医師会館にて開催されました。八田昌樹兵庫県医師連盟委員長、

盟プロジェクト委員会委員、③「医師会の役割について(坂本泰三連盟常任執行委員)の3つの演題発表に対して有意義な意見交換を行いました。

今後も「医療なくして、医療なし」の考えのもと、県民に安心・安全で質の高い医療、福祉を安定かつ継続して提供することを目指し、「県民の医療と福祉を考える会」を続けて行く所存です。

支援体制づくりが必要である。県では、既存の支援施策を引き続き実施することにより、市町、関係機関、支援団体等で構成する推進体制の構築を進める

とともに、令和6年度には、県支援事業の実績を市町に共有して各市町の支援体制構築を推進するためのキャラバン研修等を新たに実施する予定である。



かまやち さとし先生

日本医師連盟参与、兵庫県医師連盟常任執行委員の坂本です。組織内候補予定者推薦決定の報告と今後の後援活動支援のお願いの機会をいただき、心より御礼申し上げます。

日本医師連盟推薦(全国区参議院比例代表選挙)
釜范(かまやち) さとし 先生
後援会活動支援のお願い
日本医師連盟参与、兵庫県医師連盟常任執行委員 坂本泰三

る医療の質が年々向上していく一方、円安、物価高のもと、医療従事者を確保することも難しくなっています。また、医師の働き方改革が本年4月から本格的に実施され、医師の過重、長時間労働の下に維持されてきた我が国の現在の医療水準を維持していけるかどうか危惧されます。また、医師養成のあり方も考えなければなりません。

このような状況下、昨年の暮れの診療報酬改定の際に大変な危機的状況を経験いたしました。政府、財務省当局は、恣意的な統計を使い、信じていたようなマイナス改定率を提示してきました。

日本医師会と日本医師連盟は、各都道府県医師会、都市区医師会、医師連盟と力を合わせ、それぞれの地元の国会議員に対し、陳情・要望活動を展開し、なんとか診療報酬本体のプラス改定を勝ち取り、医師会の組織力と政治力がいかに大事かを思い知らされました。

また、政権与党の多くの国会議員の先生方のプラス改定への、力強い運動とご協力をいただきました。

そこで、日本医師会の考えるように、地域住民、患者の皆さんが最適な医療や介護を受けられることを守るためには、政治の場での医師、介護の状況を、知り、理解している国会議員の存在が不可欠であることが再認識されたのです。

釜范(かまやち) さとし先生は、群馬県高崎市で小児科の診療所を開設され、高崎市医師会長を務められ、地域の医療のために長年にわたり活動されてきました。また、日本医師会の常任理事を10年お務めされた経験により、医師会や医師連盟の政策や意見を十分理解した上で、活動していただけます。さらに、省庁との協議や調整、市議会、県議会、国会議員への陳情や折衝を通して、幅広い人脈を築いておられ、調整能力を十分に発揮出来る方です。ぜひ釜范(かまやち) さとし先生に国政の場や、先生のご経験と人脈を活かし、我が国の優れた医療制度や介護制度を維持・発展させていかなければなりません。

かまやち さとし (釜范 敏)

生年月日：1953年(昭和28年)7月5日生 群馬県高崎市出身
所属医師会：群馬県医師会 開設医療機関：小泉小児科医院(群馬県高崎市)

| | |
|---------------------------------------|---|
| (経歴) | 2020年 新型コロナウイルス感染症対策分科会構成員(～2023年) |
| 1978年 日本医科大学 医学部 医学科 卒業 | 2020年 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード構成員(～2024年) |
| 1978年 日本医科大学付属第一病院 小児科 入局 | 2023年 新型インフルエンザ等対策推進会議委員(～2024年) |
| 1988年 小泉小児科医院 院長(～現在) | (免許・資格など) |
| 1997年 高崎市医師会 理事 | 医師免許 |
| 2001年 高崎市医師会 副会長 | 医学博士 |
| 2005年 高崎市医師会 会長 | 日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児神経学会 会員 |
| 2011年 群馬県医師会 参与(～現在) | たかさき春まつり実行委員長 |
| 2014年 日本医師会 常任理事(～現在) | |
| 2020年 新型コロナウイルス感染症対策 専門家会議構成員(～2020年) | |

生方、おひとり、おひとりのご理解が重要なことです。国民の皆様が安心して、医療を受けることができ、医療提供者が安心して、医療を提供できるよう、会員の先生方はもちろんのこと、ご家族、職員の皆様、患者さん、ご友人、おひとりおひとりに、政治活動の重要性について多くの方のご理解を得なければなりません。

先生方に、参議院の組織内議員の重要性、釜范(かまやち) さとし先生の政策や人柄について、ご理解を深めていただく活動を展開していただくよう心よりお願い申し上げます。

兵庫県医師連盟が一体となって、釜范(かまやち) さとし先生の後援会活動への絶大なご支援を重ねてお願い申し上げます。



赤羽一嘉 衆議院議員

野々垣執行委員(以下 野々垣) 本日はお忙しいところ、お時間をとお取りいただきありがとうございます。

赤羽議員は、慶應義塾大学法学部政治学科を卒業後、三井物産に入社。1993年、35才で衆議院総選挙に初出馬。現在

9期目ですが、政治家になられた経緯をお聞かせください。

赤羽衆議院議員(以下 赤羽) 私は全日本高校選抜に選ばれたほどラグビーに熱中していたことから、本当はスポーツ医学の道に進みたかったのですが、挫折して、1983年から商社マンとして中国や東南アジアを飛びまわり、日本の政治には無関心でした。私は、もともと政治家を志望していませんでした。現実的に政治家になるチャンスもあり得ず、また、その資質もないと認識していましたので、公明党から声がかかった時には、人違いではないかとビックリしました。

私に出馬要請があった1993年総選挙は、政治改革の大きな流れの中、自民党単独政権が終焉を迎えた選挙戦でした。公明党は、将来の二大政党に備えて、医師や弁護士、公認会計士、国家公務員、新聞記者や海外留学等の経験のある若手を候補者に選定しており、私もそのうちの一人でありました。

野々垣 そうした状況の赤羽さんが衆議院議員に挑戦することを決断された理由は何だったのでしょうか？

赤羽 さすがに無下にお断りするわけにもいかず、35才の青年の私が国会議員としての重責を果たすことができるのかどうか、熟慮に熟慮を重ねました。そもそも私は小さなパン屋の長男として生まれ、朝早くから夜遅くまで働き続ける両親の背中を見て育ち、奨学金で大学を卒業するなど庶民の中の庶民の家庭で育ちました。しかしながら、こんな生い立ちの私だからこそ、「真面目に働く人が報われる社会」「家庭の経済状況によらず、誰もが公平に能力を発揮できる社会」等を実現する使命があるのではないかと考え始めました。

大学時代にゼミ旅行で南アフリカを訪問し、白人政権による苛酷な人種差別の実態を肌で体験しましたが、訪問後10年も経たない内にネルソン・マンデラ

が獄中生活から釈放され、アパルトヘイトも撤廃。そして初の黒人大統領が誕生するなど国家が一変したのであります。また1985〜86年に留学した台湾では、目覚ましい経済成長が続く一方、国民党による一党支配の変革を求めるデモ行進が連日展開され、民主的手続きで、世界中がアッと驚く政権交代が実現しました。北京に駐在していた1989年に天安門事件に遭遇し、中国人民の自由民主を求める本音と、共産主義国家を維持するためには武力弾圧も辞さない国家指導者の本音を知ることになる等々、数々の歴史の転換点の現場に遭遇した得難い体験をした私は、ひょっとしたら国際社会における日本の目指すべき方向について、微力ながら貢献できるかなと漠然と考え、その結果、自分の人生を、国が直面する様々な危機から国民の命と暮らしを守る政治の

実現にかけてみようと思いを固め、政治の世界に挑戦することを決意致しました。以来、地元・神戸市民の真心からのご支援を賜り、9期目の選出を頂いておりますことは、感謝の思いで一杯です。

野々垣 赤羽議員は、阪神・淡路大震災に現職国会議員として遭遇し、今なお現職でいらっしゃる唯一の国会議員と伺いました。その時の体験から得たものは何でしょうか？

赤羽 まずは、阪神・淡路大震災で生命の危機に瀕した数多くの被災者の救命・救助に献身的に尽力して頂きました医師会の先生方に、改めて心から感謝申し上げます。

私自身は震災で住む家を失いながらも、一年生議員として無我夢中で、焦土と化した修羅場となった被災現場で、被災者の救済や生活再建、インフラ復旧などに取組みましたが、その戦いの中で、被災者の思いに叶う復興を阻む壁となったのは国の既存制度であることを痛感しました。そして、この厚い壁を突破した経験が、政治家・赤羽一嘉の原点であり、わが国の新たな災害法制や防災・減災対策の出発点であったと確信しています。

復旧復興を阻んだ国の壁と

は、「私有財産の形成に国民の税金は投入しない」「被災者支援に現金支給はしない」「復旧は元通りに。焼け太りは許さない」等の政府の大原則でした。具体的な例を挙げれば、全壊した住宅の解体撤去費用は住宅の所有者の負担とする政府の方針を崩すのは並大抵な戦いではありませんでした。私は何度か国会で取上げ、「一軒一軒の住宅は個人所有であっても、全壊の住宅が十軒、二十軒とつらなれば、それは街並みそのものであり、街並みの復興は国や自治体が責任を持つのは当然」と主張し、今では当たり前になった激甚災害時の被災家屋の公費解体が実現したのです。

また、13年かかりましたが、全壊世帯に最大300万円の現金を所得制限なしで支給できる被災者生活再建支援法を制定し、東日本大震災では20万世帯以上の被災世帯に支給することができ、被災者の皆様から大変感謝されました。避難所でのプライバシーの保護や簡易トイレや冷暖房の設置、医療・介護体制の整備等、徐々にではありますが確実に改善してきています。

野々垣 その後、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故では、経済産業副大臣・原子力災害現地対策本部長として福島復興の先頭に立ち、現在は、本年元日に発生した能登半島地震の

公明党の対策本部の責任者として毎週のように被災地に足を運び、復興に全力を尽くされていると承知しております。それだけの災害からの復興過程における医療面の関わり等についてお話を伺えますか？

赤羽 福島原発事故は、目に見えない放射能との戦いとなつた未曾有の災害でありました。私自身、原子力事故現地対策本部長として、避難指示の解除や東京第一原発の廃炉に関わりながら被災地の復興を進めてまいりましたが、一番難しかったのが、正確な情報を適切に伝えて、風評被害を起さない「リスク・コミュニケーション」についてでありました。

新たな事象が発生する度に、自称・専門家がマスコミとタッグを組んで非科学的な妄言を弄して世の中の不安を煽り、自らの著書の宣伝をして私腹を肥やした不届き者が跋扈する中で、震災直後から、福島原発事故による健康影響について、一貫して科学的に正しい発言をされ、パニック状態にならないうちに被災者に安心を与え続けていただきましたのは長崎大学の山下俊一教授でありました。また、低線量被曝の人体への影響についての継続的検査も重要であり、仮設住宅には診療所を設け、医師の皆様が献身的にご協力賜りましたことは、

野々垣 執行委員

が獄中生活から釈放され、アパルトヘイトも撤廃。そして初の黒人大統領が誕生するなど国家が一変したのであります。また1985〜86年に留学した台湾では、目覚ましい経済成長が続く一方、国民党による一党支配の変革を求めるデモ行進が連日展開され、民主的手続きで、世界中がアッと驚く政権交代が実現しました。北京に駐在していた1989年に天安門事件に遭遇し、中国人民の自由民主を求める本音と、共産主義国家を維持するためには武力弾圧も辞さない国家指導者の本音を知ることになる等々、数々の歴史の転換点の現場に遭遇した得難い体験をした私は、ひょっとしたら国際社会における日本の目指すべき方向について、微力ながら貢献できるかなと漠然と考え、その結果、自分の人生を、国が直面する様々な危機から国民の命と暮らしを守る政治の

実現にかけてみようと思いを固め、政治の世界に挑戦することを決意致しました。以来、地元・神戸市民の真心からのご支援を賜り、9期目の選出を頂いておりますことは、感謝の思いで一杯です。

野々垣 赤羽議員は、阪神・淡路大震災に現職国会議員として遭遇し、今なお現職でいらっしゃる唯一の国会議員と伺いました。その時の体験から得たものは何でしょうか？

赤羽 まずは、阪神・淡路大震災で生命の危機に瀕した数多くの被災者の救命・救助に献身的に尽力して頂きました医師会の先生方に、改めて心から感謝申し上げます。

私自身は震災で住む家を失いながらも、一年生議員として無我夢中で、焦土と化した修羅場となった被災現場で、被災者の救済や生活再建、インフラ復旧などに取組みましたが、その戦いの中で、被災者の思いに叶う復興を阻む壁となったのは国の既存制度であることを痛感しました。そして、この厚い壁を突破した経験が、政治家・赤羽一嘉の原点であり、わが国の新たな災害法制や防災・減災対策の出発点であったと確信しています。

復旧復興を阻んだ国の壁と

は、「私有財産の形成に国民の税金は投入しない」「被災者支援に現金支給はしない」「復旧は元通りに。焼け太りは許さない」等の政府の大原則でした。具体的な例を挙げれば、全壊した住宅の解体撤去費用は住宅の所有者の負担とする政府の方針を崩すのは並大抵な戦いではありませんでした。私は何度か国会で取上げ、「一軒一軒の住宅は個人所有であっても、全壊の住宅が十軒、二十軒とつらなれば、それは街並みそのものであり、街並みの復興は国や自治体が責任を持つのは当然」と主張し、今では当たり前になった激甚災害時の被災家屋の公費解体が実現したのです。

また、13年かかりましたが、全壊世帯に最大300万円の現金を所得制限なしで支給できる被災者生活再建支援法を制定し、東日本大震災では20万世帯以上の被災世帯に支給することができ、被災者の皆様から大変感謝されました。避難所でのプライバシーの保護や簡易トイレや冷暖房の設置、医療・介護体制の整備等、徐々にではありますが確実に改善してきています。

野々垣 その後、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故では、経済産業副大臣・原子力災害現地対策本部長として福島復興の先頭に立ち、現在は、本年元日に発生した能登半島地震の

公明党の対策本部の責任者として毎週のように被災地に足を運び、復興に全力を尽くされていると承知しております。それだけの災害からの復興過程における医療面の関わり等についてお話を伺えますか？

赤羽 福島原発事故は、目に見えない放射能との戦いとなつた未曾有の災害でありました。私自身、原子力事故現地対策本部長として、避難指示の解除や東京第一原発の廃炉に関わりながら被災地の復興を進めてまいりましたが、一番難しかったのが、正確な情報を適切に伝えて、風評被害を起さない「リスク・コミュニケーション」についてでありました。

新たな事象が発生する度に、自称・専門家がマスコミとタッグを組んで非科学的な妄言を弄して世の中の不安を煽り、自らの著書の宣伝をして私腹を肥やした不届き者が跋扈する中で、震災直後から、福島原発事故による健康影響について、一貫して科学的に正しい発言をされ、パニック状態にならないうちに被災者に安心を与え続けていただきましたのは長崎大学の山下俊一教授でありました。また、低線量被曝の人体への影響についての継続的検査も重要であり、仮設住宅には診療所を設け、医師の皆様が献身的にご協力賜りましたことは、



赤羽一嘉 衆議院議員

野々垣真佐史 執行委員

(三面から)

被災者の皆様に大きな安心を与えて頂きました。改めて、心から感謝申し上げます。

能登半島地震では「高齢被災者」への対応が新たな大きな問題となっています。被害の大きかった輪島市や珠洲市などの奥能登地域は65歳以上が55%を占める高齢社会であり、介護施設の損壊により入居者の新たな受入先の確保が困難を極め、避難所や仮設住宅への転居などの環境の変化による体調の悪化や認知の進展など、復興の過程において、医療・介護などの福祉サービス体制の確保が最大の課題となっており、今後起きうる激甚災害の予防対策として、医師会の先生方との対策検討会の立ち上げが必至となると思います。

野々垣 赤羽議員は、国土交通大臣時代には、新型コロナウイルス感染症の対応にも忙殺されておられましたね。

赤羽 はい、国土交通大臣も関係閣僚の一人として、令和2年2月上旬のある晩、当時の菅官房長官から急ぎよ呼び出しがあり、横浜港沖に停泊中のダイヤモンド・プリンセス号に10名の陽性患者がいるらしいとの情報もたらされ、結局夜中の2時過ぎまで議論を交わし、早朝5時に国交

省港湾局の幹部と厚労省の医官幹部が海上保安庁の船でダイヤモンド・プリンセス号に乗り込み、船長に正確な情報を伝え、感染拡大防止の協力を得ることにしました。その日から、連日、昼は国会対応、夜は対策会議が続くことになりました。

また、同時期に、コロナ発生地の中国・武漢から在留邦人の帰国支援として、羽田空港までのチャーター便の手配、受入れホテルの選定、羽田空港からホテル迄のバスの確保等に追われました。

以後、様々な感染状況の変化に伴い、その対策の決定に関わった次第ですが、正体不明の感染症との対峙という中で、常に「新型コロナウイルス感染症対策分科会」の尾身茂会長ほか感染症の専門家の先生方のご指導を仰ぎながら、その都度、適切な対策を講じることができたことや効果のあるワクチンが開発されたことは、まさに不幸中の幸いであったと心から安堵しています。

今、重要なことは、このたびの教訓を生かし、再び起こり得るであろう未知の感染症との戦いに對し、専門家のご指導を仰ぎながら、平素より適切な対策を講じることが、政治の最大の責務であると痛感しています。

野々垣 最後になりますが、近年の医師不足について、どのようなお考えでしょうか？

赤羽 10年ほど前の兵庫県医師会の会合で、産婦人科医の中野先生から「赤羽さん、兵庫区内で出産ができる病院や病棟は一つもないことを知っているか？」と問いかけられたことを鮮明に記憶しています。当時の私は、恥ずかしながら、産婦人科病院はどこでも出産ができる」と認識をしておりましたが、それは大きな間違いでありました。

近年、産婦人科医だけでなく医師全般の不足および偏在化が進み、その結果、一人一人の医師・看護師・介護士の労働環境は悪化し、心身の負担も増え、痛ましい事態も惹起しています。地方では、高齢化の進展も急激である一方、医師不足はより深刻であり、この問題の解決には、一歩ずつ着実に対策を講じることが必要です。

しかしながら、昨年11月20日、財政制度等審議会は、「令和6年度予算の編成等に関する建議」を鈴木俊一財務相に提出しましたが、驚くべきことに建議では、診療所の利益率は、コロナ対策もあり平均8%と高い水準となっていて、これを全産業の平均程度となるよう診療報酬を大幅に引下げることによって、保険料の負担を総額2、400億円減らせるとの試算でありました。

私は、財政制度等審議会の知り合いの委員と面談し、その根拠を質したところ、財務省が提示した資料の数字が、実態とはかけ離れた、かなり作爲的な数字であったことが判明しました。その後の国会での予算委員会において、公明党は、再三、診療報酬改定を取り上げ、医師・介護士不足の解決には、賃上げをはじめ労働環境の改善が不可欠であると主張し、最終的にプラス改定を勝ち取ることができたものと承知しています。

改めて申し上げるまでもなく、世界に冠たる国民皆保険制度を維持し、高齢社会でもビクともしない安心な社会の構築に向けて、私自身も全力を尽くしてまいりますので、医師会の先生方からのさらなるご指導賜りますことを心からお願ひ申し上げます。

野々垣 本日はお忙しい中ありがとうございました。今後ますますのご活躍をお祈りします。

郡市医師連盟だより

【明石市医師連盟】

明石市医師連盟では、新型コロナウイルスパンデミックの影響により対面での地元選出政治家との懇談会は中断していましたが、新型コロナウイルスが感染症法上5類相当となつて久しぶりに政治家との対面での懇談会を2023年9月22日、明石市内で開催しました。懇談会には昨年の県会議員選挙で当選された新人1名を含め、当連盟推薦の県議員3名の計4名と地元選出の西村康徳代議士代理の秘書さん、加田参

議院議員と地元医師連盟会員15名が参加しました。

まず、久しぶりと言うことで各議員さんから自己紹介をかねてご挨拶をいただき、懇談に入りました。当時は診療報酬改定前であり、特に財務省からの診療報酬引き下げの圧力が話題となっていましたので国会議員さんには、この点に関して我々から必要な報酬確保の必要性を説明し応援をお願いいたしました。懇談は和やかな雰囲気で行い、政治家の皆さんには昨年、

調講演をお願いした元厚労省のキャリア官僚で香取照幸兵庫県立大特任教授著「高齢者福祉論」を贈呈し社会保障を考える上での参考としていただくようお願いし閉会しました。

最後に一言ですが、毎日報道されている政治資金パーティー券売り上げの還付金に関して地元兵庫9区選出



加田参議院議員挨拶

【出席議員】

- 加田 裕之 参議院議員 (自 民 党)
- 北口 寛人 県会議員 (自 民 党)
- 岸口 実 県会議員 (日本維新の会)
- 伊東 勝正 県会議員 (公 明 党)
- 橋本 慧悟 県会議員 (市民の会)

明石市医師連盟顧問 橋本 寛